

# 産業発展論（川 端）演習

## 1 テーマ

世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する。産業発展論は、時間の経過に即した産業の生成・発展・再編・衰退を取り扱う科目です。

## 2 テキスト

\*学年の初めには、日本と世界の経済についての主要問題を学びます。

例) 2015年度前期：トマ・ピケティ『21世紀の資本』

2016年度前期：橋木俊詔『日本人と経済』

2017年度前期：金森久雄・大守隆『日本経済読本（第20版）』

\*それからより具体的に、産業分析の方法を学ぶテキストを用います。

例) 2015年度後期：藤本隆宏ほか『ものづくり経営学 製造業を超える生産思想』

2016年度前期：橋川武郎ほか編『アジアの企業間競争』

2017年度前・後期：加護野忠男・山田幸三編『日本のビジネス・システム』

## 3 趣 旨

- (1) 企業・業界分析ができるようになるろう！
- (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになるろう！
- (3) 自分のゼミ活動を形に残そう！
- (4) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになるろう！

## 4 年間計画

- \*2月：次年度打ち合わせ。新ゼミ生歓迎会。
- \*3月：新ゼミ生は春休みレポート作成。卒業祝賀会。
- \*4月：花見。レポート討論会。
- \*5月：テキスト輪読。4年生卒論（演習論文）構想発表会。
- \*6-7月：テキスト輪読。工場見学行き先決定コンペ。3年生第1学期レポート作成。
- \*8月初め：現代産業研究会（卒業生と交流）。
- \*10-11月：テキスト輪読，工場見学旅行，4年生卒論中間報告会。
- \*12月：4年生卒論最終報告会。3年生業界研究報告会。
- \*1月：4年生卒論提出。3年生業界研究レポート作成。

5 募集人員 進級者，編入学者あわせて7名をめどとします。

## 6 参加条件

- (1) 当ゼミは，定められた単位にふさわしい範囲内で，しかし密度高く活動しています。無断欠席をしない，事前に調査・分析をして報告する，レポートや論文を提出する，役割分担を果たすことは，単位を取得するための必要条件です。
- (2) ワード，エクセル，パワーポイント，インターネットメールを使います。パソコンベースの，長文と添付ファイルを使えるメールアドレスを必ず準備してください。
- (3) 川端担当の基本専門科目「日本経済」も受講してください。
- (4) 当ゼミは経済学科のゼミですが，内容は経済学と経営学を横断的に扱うものです。
- (5) 経済数学は必要ありません。英語を読めることは必要です。

## 7 選考方法（4月演習（I）履修開始者）

第1，2次募集では，計7名まで無条件で受け入れます。7名を超えたときだけ選抜を行います。第3次募集は，2次募集までの参加決定者が4名以下の場合のみ行い，個別に面談して決定します。

## 8 運営方針

- \*ゼミ生が書いたレポートや演習論文を編集して形に残すことを重視します。演習論文は「卒論」と位置づけ，ゼミ誌『研究調査シリーズ』に収録します。
- \*定性的分析，ケース・スタディが中心です。ひとつひとつの業界の出来事や企業の行動を理解し，その経済的・社会的意義を探る方法です。
- \*近代経済学，マルクス経済学，経営学のいずれをベースにしている人でも参加できます。
- \*ゼミ生自身によるゼミ運営を重視します。ゼミにはゼミ代，旅行委員，現代産業研究会事務局員，機材委員，編集委員，宴会委員などの役割分担があります。
- \*前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり，年に1回「現代産業研究会」を行っています（自主ゼミの工業経済研究会と合同）。各界で活躍されている卒業生や研究者の講演を聞き，交流できます。
- \*年1回，工場見学旅行を行います。

## 9 担当教員の主要な研究業績

日本を含む東アジアの産業について研究しています。

- \*「中国経済の『曖昧な制度』と日本経済の『曖昧な制度』 ー日本産業論・企業論か

- らの一視点一」『中国経済経営研究』第1巻第1号，2017年3月。
- \* 「ベトナム鉄鋼業における民間企業の勃興」『アジア経営研究』第22号，2016年。
  - \* 「市場経済移行下のベトナム鉄鋼業」『赤門マネジメント・レビュー』第14巻9号，2015年。
  - \* 「中国鉄鋼業における省エネルギーとCO2排出削減対策」『アジア経済』第55巻1号，2014年(趙洋氏と共著)。
  - \* 「東北地方における自動車部品調達の構造」『赤門マネジメント・レビュー』第12巻10号，2013年(竹下裕美氏と共著)。
  - \* 「大連市におけるソフトウェア・情報サービス産業の形成」『アジア経営研究』第18号，2012年(張艶氏と共著)。
  - \* 「東日本大震災における情報・通信システムの被害とその教訓」(東北大学大学院経済学研究科地域産業復興調査研究プロジェクト編『東日本大震災からの地域経済復興への提言』河北新報出版センター，2012年)。

10 指導教員が薦める本 自分が面白いと思った本を読むのが一番です。

11 「ゼミ見学」の可否

歓迎。常時受け付けます。金曜日14時40分に第8演習室へ来てください。途中退室・入室可。

12 10月演習(I)A履修開始者に対する特記事項 なし。

13 その他

- \* 教員のウェブサイトを見て，自分の関心とゼミの内容を比較してみてください。メールによる問い合わせも受け付けます。[nozomu.kawabata.bl@tohoku.ac.jp](mailto:nozomu.kawabata.bl@tohoku.ac.jp)です。
- \* 演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。過去のテーマは，ウェブサイトの『研究調査シリーズ』紹介ページをご覧ください。  
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/zemi/series.htm>
- \* 進路実績はメーカー(自動車，石油・ガス，重機，鉄鋼，素材，医薬品，化学，エレクトロニクス)，銀行・証券，サービス(IT，通信，鉄道，不動産，テレビ局，コンサル，情報サービス，人材サービス，大学職員)，公務員，大学院進学など多岐にわたっています。
- \* 2016年度第1学期のゼミ参加者は14名(4年生5，3年生8，研究生1)(男子12，女

子2) でした。

\*ゼミでは懇親会も盛んですが、飲酒を強要することはありません。

学びたい人，書きたい人，語りあいたい人を待っています。